

今後の相談員研修について：がん相談支援活動の質の維持・向上に向けた提案書

平成 26 年度 がん相談支援センター相談員研修専門家パネル

利用者が安心してがん相談支援センターを利用できるようにするための条件

利用者が安心してがん相談支援センターを利用できるようにするためには、がん相談支援センターに携わるすべての人ががんの相談支援の重要性を理解し、1) 一人一人のがん専門相談員が、求められる役割を果たすために必要な知識や技術について継続的に学習し、自己研鑽を行うこと、2) またがん専門相談員やがん相談支援センターが組織の中での位置づけが明確にされ、個人として、また組織として継続的に質的な向上をはかれるような環境があること、3) さらにがん相談支援センターを取り巻く関係諸機関においても、がん相談支援センターが周知され、必要とするときに適切に利用できるような支援体制や認識・意識の向上が図られることが必要である。つまりは、個々の相談員だけでなく、相談支援を取り巻く体制がシステムとして整備されることが必要である。

がん専門相談員の役割

がん相談支援センターの相談員は、相談者に寄り添うことを基本姿勢とし、「がん患者や家族等の相談者に科学的根拠と、がん専門相談員の実践に基づく信頼できる情報提供を行うことによって、その人らしい生活や治療選択ができるように支援する」ことを役割とする。がんの領域は、その人のライフステージに合わせて、新しい治療法の導入や就労等を含めた包括的な支援が求められ、さらに国や自治体の施策を全国に広く底上げしていくための重要な役割を担うとともに、日々相談者と接する中で明らかになってくる課題を見出し、必要に応じて支援の形に結びつけていくという役割も担う。

がん専門相談員に求められる能力

これらの役割を果たすために、がん専門相談員には、コミュニケーション技術を身につけ、対象者を理解する力、他の専門職や他機関等と連携して支援を行う力、相談者の訴えに寄り添い、課題解決に向かってともに歩むと共に対象者が自己決定できるように支援する力、そして自分の立ち位置を確認できる状況を把握する力やそのための場を持つことも求められる。

がん専門相談員が、がん相談支援活動の質を担保し、質を維持・向上させるために

がん専門相談員が、相談員に求められる能力を身につけ、さらに、がん相談支援活動の質を担保し、質を維持・向上させるためには、以下のような知識、経験そして価値や姿勢をもつ必要があると考えられる。

知識：がん患者・家族およびその周囲の人が抱える困難とその対処法についての医療・看護・介護・福祉・施策に関する知識

経験：知識や技術を活用しながら実際の相談対応において、支援を導くための経験（経験年数、がん相談対応件数、実際に対応する相談の質）

価値・姿勢：がん専門相談員の基本姿勢と役割を理解し、日々の業務において、必要な知識を更新し、経験を積み、またその経験がより有意義なものとなる自己研鑽を行う姿勢

<具体的に目指す方向性>

● 定期的な知識や情報の更新の確認：2年から4年の間隔で知識の更新状況を示す

がん専門相談員に求められる新しい知識や情報は、その都度更新することが当然理想である。多忙な相談支援業務の中で対応が難しいこともあるため、最低限必要な更新期間を設け、定期的に確認し、利用者に示していくことが必要であると考えられる。

● 教育や研修の形態と必要とされる参加頻度：受動的および能動的な教育・研修の機会を確保する

がん専門相談員に求められる能力を研鑽するためには、受動的な教育・研修（講義など）だけでなく、能動的な教育・研修（演習など）を織り交ぜた学習機会が必要である。

● 系統的・継続的な学習・教育を受けた相談員の所在を明示する

以上に示したような研鑽を実際に行っているがん専門相談員の所在を、利用者がわかる形で明示することで、利用者が安心してがん相談支援センターを利用できる手がかりを提供できる。